

まなびや

暗がりに浮かぶ映像に感動！

幻灯機・スライド映写機・OHP

ガラス板に描いた絵やフィルムに光を当て、スクリーンに大きく映し出す幻灯。明治期から教育現場での活用が始まり、地理・歴史・理科などの授業で視覚的なイメージを補いました。その後普及したスライドも、幻灯の一種。ポタン一つで切り替わる映写機も登場し、自作の教材を作製する教師も現れました。また、パソコンやプロジェクタが学校に導入されるまで、OHPも授業で活躍しました。



明治から昭和にかけて普及。
ガラスの絵や写真を
ランプや電灯で投影した。

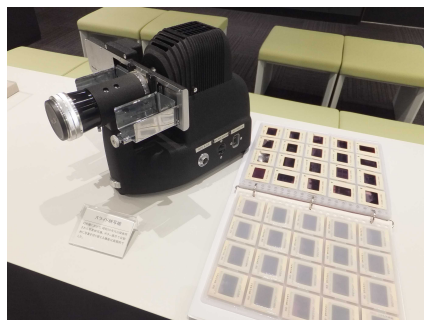
1960年前後から
画像が鮮明な
スライド映写機が
主流になった



読売新聞：学校 モノ・風景 より



OHP (S52：福井市下宇坂小)



スライド映写機 (S40：福商高)



幻灯機 (昭和初期：福井市日之出小)



教育博物館 16mm映画上映会



16ミリフィルム映写機

ビデオやDVDがまだ普及していない昭和の時代、夏休みの夕方等に公園や地区の広場で公民館や子供会主催の映画会が開催されていました。先日の上映会では、初めて見る機械に子どもたちは興味津々、また大人は「ああ、懐かしい」と声が上がりました。

16ミリ映画上映会

視聴覚教育とは

教科書を典型とする文字文化中心の教育ではなく、視聴覚に訴える具体的・直感的認識を通じて学習の効果を高めるといった教育方法。

実物、模型、スライド、図類、映画、テレビ等の手段を用いる。現在では、パソコン、デジタル教材などの情報機器を活用しています。

情報教育とは

文科省から「情報化の進展に対応した教育環境の実践に向けて」「子どもたちに情報活用能力を育成することに加えて、各教科等の目標を達成する際に効果的に情報手段を活用すること」とあります。

ICT教育とは

ICT教育とは、様々な形態でICTを活用した教育に関する取り組みのことで、教科書等を大きく映したり、デジタルカメラで撮った写真をプロジェクタで投影したりして、情報を共有し授業を行っています。子どもたちの学習意欲や、理解力の向上のための創意工夫ができます。